

詩歌合

建保元年二月

詩歌合

延保元年二月廿六日



一番

山中花夕

た

右中弁藤原範時朝臣

好鳥林深凌雪宿瑞樵路滑履春行

右膳

播磨守藤原範基朝臣

いりそふのいあふふうは花より出づ月をま

二番

た

お下

桃溪浪洗斜陽新梅嶺風雪芳秋夜多

衣

よの雪のよききうの今ふひはる花のゆ



三番

丸
膳

權衣中每平經高胡卜

烟霞林遠暮雲掛
柳絮蹊深春日重

衣

部解由次友平宗宣

初まゝ花の梢より色あけぬ入おのゝね

日壽

左持中

松栢嵐曛青寂寞峯
密花滿白參差

在

虎より雪の様に白きて衆よりゆりたれを著

五毒

九
十

武部權大輔爲長卿

一
日遊春瑞帶月雙雲爲雪老眠花

衣

權大綱玄良平卿

其一二を以て示す

いふ人のせ

六番

九

煙霞洞裏猿人右錦繡谷西居士家

右
猪

雲を飛ぶやうに橋の上を渡る夕暮

七番

九

持上

大宰權帥資實卿

山郭風煙多ト柳溪門桃李少從松

右

侍從定家卿

時多きといひ白きとて唐錦立田のふねの花の風
八番

右

持上

嶺霞台岳八千丈花雨至山十二重

右

梅より霞のりよりふりぬつとやとをとのさ
九番

右

持中

参議範朝卿

琴瑟共端樵客路耽粧歆病隱倫家

右

女房 御製

みづのや花く布より夕暮れをいふはぬまの
十番

右

晴風拂嵐零春露斜日映林濕晚霞

右

後

うつきやう方れ梅はあけて夕なり雲のけう
十一番

右

持下

從三位頼範卿

嶺梅遠近隨嵐馥野杏浅深秉燭分

右

從三位家衡卿

舊より山陰より夕月と花とほのろく

十二番

九
持中

与鳥歸林期曉月為花借宿入春雲

衣

みづのうきをわたりて人なる夢の如く

十三番

九
播

右中將源通方朝臣

霞中問雲訪松戶塵外愛山坐石稜

右

女席

きひさいたふあふふふふふふふふ

十四番

九
猪

溪竹夕鶯藏霧宿嶺林春月出花昇

右

中うとみねのまゝ成しとらもて花よりぬり

冬月

十五番

九
持中

左井藤系家宣

雲遙歸溪鳴柳宿月克銜嶺出蒼遲

右

女席

とまゐりておの橋よりむひたきめしのきこ

十六

た 持下

春山霧白鶯高轉青嶂霞紅松獨遺

右

海さのあちの書ぬの梅人このめなり花の下に

十七番

た

た迎將監藤原教實

唯逗春山應卜宿縦草西日歎何之

た 持下

た東門松少尉藤原康之

白く風のそとをひていとりの花のゆれ

十八番

た

樵夫哥返沙花夕空女夢方行雨時

右

あつゝあつゝとてとぬの花白うふうと風の夕風

十九番

た 持下

中文大進藤原兼隆

藍溪霞暖鶯聲出松洞日暝鶴睡閑

右

た近少将藤原為家

ふも又花ゆふ書を袖のこころをわく入るのこ

二十番

た 持下

与月相期占绿水為花一水有春山

尾 持下

春山霧白鶯高轉青嶂霞紅松獨遺

右

海さのあちの書ぬの梅人とのめがら花の下に

十七番

尾

た近將監藤原教實

唯還春山應卜宿縱草西日歎何之

右 持

た忠門松少尉藤原康光

白く風のそとをひいてひとりよの花のゆれ

十八番

尾

樵夫哥返沙花夕空女夢タ方行雨時

右

あつゝあつゝとてふねの花白うふうと風の夕風

十九番

尾

中文大進藤原兼隆

藍溪霞暖鶯聲出松洞日暝鶴睡閑

右

尾近少乃藤原為家

ふも又花ゆふ書を袖のとふとやふ入衣のふ

二十番

尾 持

与月相期占绿水為花一水有春山

すみ菴

左 持下

物解由以平棟基

雨来柳色裏人含露、霞底桃顏碎和春

右

丹後守藤原範宗

梅影未れり霞は夢やとて白ふ山に袖の夕西
止み菴

左

客路送薰新月影推衣惟馥暖風辰

右 持

去序りしちつきもあけぬ山梅影を衣と名着

一番 野介秋室

左 持

範朝卿

松蓋雨時應宿宸蘆花風處似松人

右

女房

袖をを九折けの露のほしあてて露もも秋の

二番

梅人

左 持上

山西露薄斜陽遠林下鹿鳴落葉頻

右

渾ちふやのしれあふれし白露れあふふ秋の

三番

あふふ也

左 持上

賀實卿

隼撃林梢飛多し新原上獵徒多

三 名 定家卿

材ぬれ玉ぬきしらぬ秋風いくつとく病の上の

四 番

た 抄上

殷夢夜靜 日霖雨軒樂秋深落葉波

二 名

物あゝまればいづろひぬゝのほもをらの系

五 番

た 為長卿

白鷺雙飛秋澤雪紅梢半出暮の雲

衣 播 良平卿

むづのやさあつ時いりほろにけひくそをを

六 番

た 播

風生材柳多葉落月透野松帶翠氣

七 番

なみやくいのあゝ霧れをきうもあゝぬ

七 番

た 通官朝臣

寒水澤長蘆兩岸秋花徑細草千程

右 膳 女房

あき花のうらみもいふ秋の神の心もこの一花

八番

た 緒

佐雲連野を臨風爽頼興林睡鹿驚

衣

あき花のうらみもいふ秋の神の心もこの一花

九番

た 晴

頼 範 卿

秋露草深麋鹿苑夕陽煙細隱倫棲

衣

家 衡 卿

むさしのやちの束れもさうあきおのれ

秋の夕を

十番

た 持上

月浮水面を花白霧新山腰を鷹佐

衣

あき花のうらみもいふ秋の神の心もこの一花

十一番

た 中

範 時 卿

寒野鹿蹊穿霧見暮山鴈陣を雲斜

衣

範 基 卿

あき花のうらみもいふ秋の神の心もこの一花

十二番

た 抄下

梧楸雨深群梢色蕨薄露芳百草花
名

野東より秋のふいふとく萩以内のなりて
十三番

た 抄下 家宣

嵐陰慘烈林園を野色青黄錦繡秋
衣 女房

かきつるのこれ秋の神のふいふとく萩の内なりて
十四番

た 脇

雲梯斜斜材木路月華望を近西橋

名

庭よりふいふとく萩の内なりて

神うね也

十五番

た 経高胡片

林蔭照来城梯僻稼芸割を野田岡

右 宗宣

むさしのふいふとく萩の内なりて

十六番

た 脇

紫蘭花路東昇月紅葉山嵐高西繞山

古一番

た 抄下

藤家光

を梅中晴虹軟淡平蕪雨と花蹄意

衣

源維也

あらしのふりそよとなつてこきとこれいふのみ

廿二番

た 抄下

那端曉露蕙葉悴原上秋風鷹隼揚

衣

あしきうむるあまうつつあうもふふふふれ

廿三番

あまのめ

た 抄下

藤教實

秋雲歸洞空皋都白霧隔涯遠水深

衣

藤康光

風そよふ秋のふりてそらうらうら初うの

廿四番

た 抄下

野介経通新後な材あ地僻夕陽林

衣

つゆのきつれうや秋のふりて

廿五番

た 棟基

三危露沾添虫怨一序岚色和扉夢

衣緒

靴宗教也

さほのものをすむのさのよきなる候れつちう
あうう

廿六番

た

帰燕遠花や云静色敗蘭更臥月明程

右緒

夕月来月ぬききやうややあふすく

ねちのくち

秋風路一園か咲かぬ花の影も無き

廿七番

花

秋風路

三危嶺作崇雲霧一片飛色如庵夢

衣

花

さけのものをたのしむるのころまのほろけつもの
あふふ

花

帰燕遠飛を林を散蘭更臥月明程

衣

夕月半月ををすやうつやめあふふ
はちのこ

花

花

